

<日本レジャー・レクリエーション学会第 40 回学会大会 学生ポスターコンテスト>

学生ポスターコンテスト報告

下嶋 聖¹

Report on student poster presentation competition

Hijiri Shimojima¹

東京農業大学で行われた第 40 回学会大会では、学会大会実行委員会の特別企画として、学生ポスターコンテストを実施した。これは、ポスター発表の活性化や学生による研究活動を表彰する機会の創設を目的に、初めての試みとして行った。

選考対象者は、大学院、大学、短期大学、専門学校²の学生であること、学生が第一著者としてエントリーしているものとした。本大会では、計 32 題のポスターのうち、22 題が選考の対象となった。

審査方法は、①研究内容（目的の明確性、論理性、客観性）、②研究の独創性（学会にふさわしいテーマか）、③研究の将来性（先駆性、展開性）、④プレゼンテーション能力（視認性、デザイン性）、⑤キャッチ能力（説明の明瞭性、発表態度）など 5 つの視点で評価された。審査員は、常任理事、理事及び監事の 11 名で、選考対象ポスターを審査した。今回は、会長賞と理事長賞の 2 つを設けた。総合的に優れているものとして上位 4 名を選出し、受賞対象者を決定した。

以下に受賞者ならびにポスターの概要について紹介する。

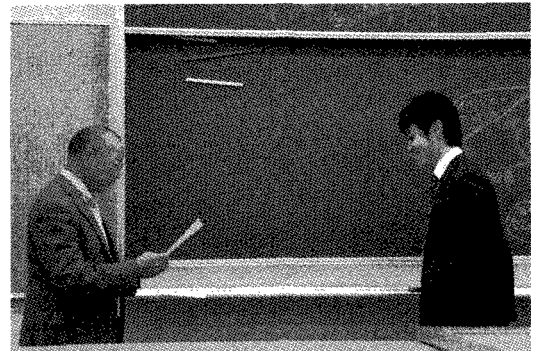
会長賞受賞

○横地佑典 [東京農業大学]、平田太良 [東京農業大学大学院]、△栗田和弥 [東京農業大学]

『大学生に対する自然体験プログラム別にみた効果についての研究 - CASE 学生環境サミットを

事例として - 』

本研究は、ラムサール条約登録湿地等で自然体験に基づいて環境保全に向けた提案を行ってきた「CASE 学生環境サミット」において、プログラムの効果性について参加者を対象にしたアンケート調査によって明らかにした研究である。独創性や研究内容が高く評価され、会長賞となった。



理事長賞受賞

○中濱健 [日本大学]、△澤村博 [日本大学]

『戦時下の厚生運動に関する研究 - 昭和 18 年から終戦まで - 』

本研究は、太平洋戦争中の 1943 年以降、日本厚生協会の所管が体力局から生活局、健民局、社会局に移っていった時代に注目し、当時の厚生運動の実態を明らかにした研究である。研究の独創性やプレゼンテーション能力が高く評価され、理事長賞受賞となった。

1 東京農業大学地域環境科学部
Faculty of Environmental Science, Tokyo University of Agriculture

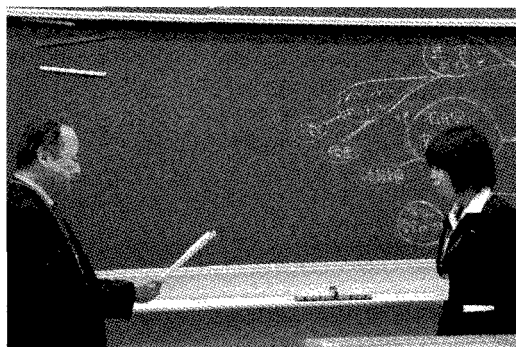


理事長賞受賞

○山野由里子 [東京農業大学]、△麻生恵 [東京農業大学]

『石川県輪島市三井町における地域活性化のためのフットパスマップの作成』

本研究は、石川県輪島市三井町における自然・歴史・文化といったあらゆる資源を集約し、散策に適するルートと、適正利用のためのルールを示したフットパスマップの作成を試みたものである。プレゼンテーション能力などが高く評価され、理事長賞受賞となった。

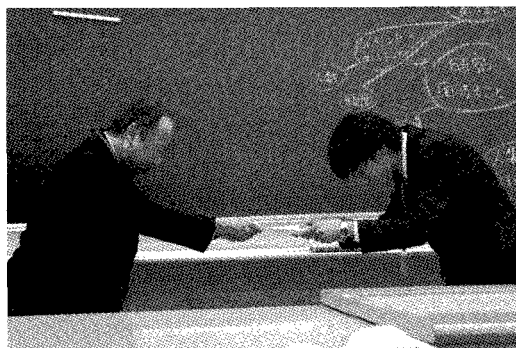


理事長賞受賞

○松本開地 [東京農業大学]、△麻生恵 [東京農業大学]、△下嶋聖 [東京農業大学]

『北アルプス雲ノ平における裸地化の変遷調査』

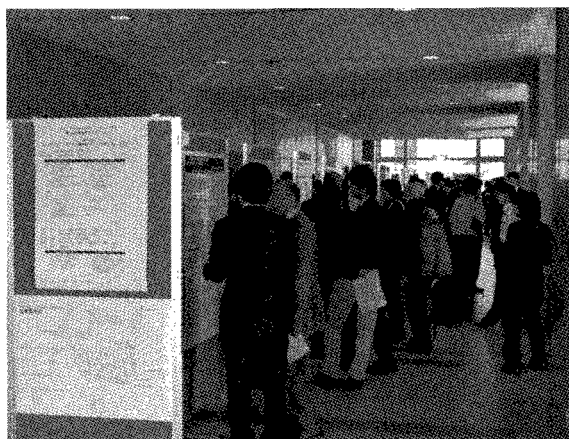
本研究は、北アルプス雲ノ平を対象に、空中写真及び衛星画像を用いて、過去から現在に至るまでの裸地の拡大変遷を解析した研究である。プレゼンテーション能力及びキャッチ能力などが高く評価され、理事長賞受賞となった。



今後の課題

日本レジャー・レクリエーション学会では学会賞を設けており、一般研究発表としてポスターも研究奨励賞の選考の対象となっている。しかし、正会員によって前年度発表されたものが審査の対象となっているため、卒業論文や修士論文等の成果を発表している学生の場合、卒業年次生が多く、優れた研究内容であっても、現行の規程では、次年度となってしまい、発表者である学生は卒業してしまっている。また学会員でないことも多く、表彰対象にならないのが実情である。

来年以降の大会においても、今回実施したポスターコンテストが継続され、学生による研究発表が表彰される機会を設けることにより、発表数の増加を促し、個々の研究の質の向上や学会活動の活性化につながることを期待したい。ポスター賞の存在がそれらに貢献できれば幸いである。



ポスター会場の様子